

問題意識

- ▷都市下層労働者階級とは誰か？→SNS上に現れた社会現象（大衆情報化社会）
- ▷トランプ現象をどう見るか？→アメリカの反知性主義と日本のネトウヨ／ヘイトスピーチ
- ▷問われているのは文化闘争か？それとも、日本社会の特異性への視線か？
- ▷記憶：情況派と構造改革派の日本論。市民社会あるいは土着社会性。→革命戦争派は何を残したか？
→「政治過程論」における社会論
- ▶80年代以降のポストモダン派の言説への後悔

はじめに

- ▷日本のポストモダン言説も、80年代から始まった。
→浅田彰『構造と力』83年。フランソワ・リオタール『ポストモダンの条件』79年／86年
- ▷日本の知識人：丸山眞男『日本の思想』吉本隆明『共同幻想論』：戦後民主主義期の知識人の大きなテーマは、敗戦を招いた日本の「精神」は何だったのか？という問題。日本の知のあり方。
- ▷左派の日本論：戦前のコミンテルンのテーゼ。封建制をめぐる規定。明治維新をどう見るか。戦後はボナパルティズムをめぐる論争。新左翼における市民社会論と吉本評価。
- ▷ポストモダン派の社会分析：宮台、東、大塚、大澤。→サブカルチャーへの目線（オタク文化論）。
→浅田彰、中沢新一、柄谷行人、加藤典洋、栗本慎一郎、蓮實重彦、宇野常寛。
- ▷古典的マルクス主義における社会分析：上部構造下部構造論。経済決定論。
- ▷レーニン主義以降：グラムシ市民社会論。アルチュセール。
- ▷戦後社会理論：フランクフルト学派。ハーバーマス、ルーマン、ギデンズ。

【A】アメリカの反知性主義

- ▷「反理性主義」の言葉の由来
 - ・リチャード・ホフスタッター『アメリカの反知性主義』1962年（翻訳：みすず書房 2003年）
- ▷アメリカ大陸入植以後の宗教事情
 - ・元々、この言葉はアメリカにおけるキリスト教伝道の特異な歴史に由来している。
 - ・1534年英国国教会確立。16世紀半ば欧州大陸諸国で宗教戦争勃発。→分離派へのジェームズ1世の迫害を逃れたピューリタンがアメリカ大陸へ（カルヴァン派は万人司祭主義）
 - ・1620年、メイフラワー号がアメリカ大陸に到着。入植したピューリタンたちは高学歴者集団（40世帯に一人が大学出身）ピューリタンの理想社会を目指す。
 - ・1636年、ハーバード大学設立。牧師養成のための大学。1701年イェール大学。1746年プリンストン大学。
- ▷1734年、マサチューセッツのノーサンプトンという町で信仰復興運動（リバイバル）始まる。（急速な人口の増加）

《その年の春、二人の若者があいつで急死し、人々の間に人生のはかなさについての実存的な不安が広まった。これに数人の回心が続き、さらにある身持ちの悪い婦人が劇的な回心を遂げるに及んで、町全体が急速な宗教心の高揚を見るに至る。巷では、目に見えて風紀が改まってゆく。浮かれ騒ぎや不謹慎な会話がなくなり、酒場は空になり、慈善が増える。断食を始める者もある。》（森本

あんり『反知性主義』p.58)

- ・ホイットフィールドとベンジャミン・フランクリン。宗教伝道のメディア事業化（神の行商人）。出版事業の拡大。野外集会。
- ・正統派ピューリタンとの対立

《「神は福音の真理を『知恵のある者や賢い者』ではなく、『幼な子』にあらわされる、と聖書に書いてある（マタイによる福音 11-25）。あなた方には学問はあるかもしれないが、信仰は教育のあるなしに左右されない。まさにあなた方のような人こそ、イエスが批判した『学者パリサイ人のたぐい』ではないか》（同 85）

▷政教分離の意味

- ・1776年、アメリカ独立宣言

《政教分離は世俗化の一過程ではなく、むしろ宗教的な熱心さの表明なのである。連邦成立時に採用された厳格な政教分離政策は、宗教の軽視でも排除でもない。各人が自由に自分の思うままの宗教を実践することができるようにするためのシステムである。この自由は、国家が特定の教会や教派を公のものと定めている間は、決して得ることができない。だから、国家そのものを非宗教化することによって、各人の信仰を最大限に発揮し実践することができる自由な空間を創出したのである。》森本 119

- ・ジェファーソン第三代大統領：「試しに、道德問題を一つ出してみるがよい。農夫は大学教授と同じぐらいよく判断できるだろうし、ことによったら、余計な人間の取り決めごとに左右されない分、大学教授よりもよい判断ができるだろう。」

→平等主義の起源。反権威主義。

- ・独立宣言における“all men are created equal”の意味：本国人と植民地人とが平等。

《植民地時代のアメリカは、何とかして「神の前での平等」が「社会的な現実における平等」という要求に直結しないようにと、必死の努力を続けていた》102

《政教分離は世俗化の一過程ではなく、むしろ宗教的な熱心さの表明なのである。連邦成立時に採用された厳格な政教分離政策は、宗教の軽視でも排除でもない。各人が自由に自分の思うままの宗教を実践することができるようにするためのシステムである。この自由は、国家が特定の教会や教派を公のものと定めている間は、決して得ることができない。だから、国家そのものを非宗教化することによって、各人の信仰を最大限に発揮し実践することができる自由な空間を創出したのである。》119

▷繰り返される信仰復興運動

- ・第二次リバイバル：1820~30年代。メソジストとバプテスト。野外テントでの集会。チャールズ・G・フィニー（実践的プラグマティスト）。
- ・メソジスト：巡回牧師制度
- ・バプテスト：全国組織を持たない。地域の教会で選出された牧師。アメリカ民主主義の基礎を形作る。最大多数派。自己中心的で独善的な世界観。
- ・教派を超えた共通感覚＝福音主義（エヴァンジェリカル）

▷ジャクソニアン・デモクラシー

- ・アンドリュー・ジャクソン大統領：ネガティブキャンペーンの最初のケース。
- ・現在の大統領制の基礎を作る。英米戦争時の軍人。拒否権の行使。
- ・ポピュリズム政治の最初のケース？トランプ大統領と相似形。「西部の無学な荒くれ者」
- ・OK (Oil Korect)

《私は当時の上院と下院をよく覚えている。両院とも、いい印象は残らなかった。下院は国家の動物園だった。当時は今以上に、開拓者や監督官の殺伐とした時代だったからである。縄張り意識が強く、品の悪さは目を覆うばかりだった。ウィスキーを飲んだり、痰を吐いたり、ナイフを振り回すことも当たり前だった。》(ホーフスタッター第6章：南北戦争前の連邦議会の様子)

▷第三次リバイバル

- ・19世紀末：ドワイト・ムーディとアイラ・サンキー。信仰とビジネスの融合。
- ・20世紀初頭：ビリー・サンデー：元大リーガーの伝道師。献金と大規模集会。アメリカンドリームの実現者。ショー・ビジネス。

「イギリスのブルジョアは既に以前から庶民に宗教的な気分をもたせておくことの必要を確信していたのである…イギリスのブルジョアは下層身分に対する福音伝道に年々幾千幾万の金をつかいつづけた。自分自身の宗教機関には満足しないで、彼らは当時宗教的事業の最大の組織者だったブラザー・ジョナサンに訴えて、アメリカから信仰復興運動、ムーディやサンキーやその他を輸入した。」(エンゲルス『空想から科学へ』1892年英語版序文：国民文庫版 p44-5)



▷第二次世界大戦後の反知性主義

- ・アイゼンハワー政権下でのマッカーシー旋風。赤狩り。

《反知性主義は、知性と権力の固定的な結びつきに対する反感である。知的な特権階級が存在することに対する反感である。》(森本：262)

《こうしてみると、知識人の地位の最も厳しい側面が明瞭になる。ここまでですでに明らかになったと思うが、反知性主義は、この国の民主的制度や平等主義的感情に根ざしている。》(ホーフスタッター：356)

- ・反エスタブリッシュメント＝反エリート＝反ユダヤ金融資本＝反連邦主義（反民主党）
- ・70年代以降の米国国内経済の変容＝金融資本化＝空洞化＝ラストベルトの形成

・90年代クリントン政権＝金融資本との癒着→00年代茶会運動⇔リバタリアン→10年代Qアノン＝ポスト真実（陰謀論）＝トランプ政治

【B】日本の反知性主義

（1）敗戦から1970年までの四半世紀

▷世帯人数と進学率の推移

年	世帯数 (万)	出生数 (万)	18歳 人口 (万)	平均世 帯人員	進学率 (%)
1950	-	-	-	5.00	
1954	1734	178	171	4.79	7.9
1960	2248	161	200	4.13	8.2
1965	2594	183	195	3.75	12.8
1970	2989	193	195	3.45	17.1
1975	3288	190	156	3.35	27.2
1980	3534	158	158	3.28	26.1
1985	3722	143	156	3.22	26.5
1990	4027	122	201	3.05	24.6
1995	4077	119	177	2.91	32.1
2000	4555	119	151	2.76	39.7
2005	4704	106	137	2.68	44.2
2010	4864	107	121	2.59	50.9
2013	5011	101	123	2.51	49.9
2016	4995	98		2.47	
2019	5179		117	2.39	58.1

・平均世帯人数は敗戦直後は戦前に比べて増加したが、1950年ごろに落ち着いた。そしてその後、70年までの20年間で5人から3.45人へと急激に減少した。これが戦後の農村から都市への労働力の移動に伴うものであることはよく知られた事実である。

・進学率の推移を見ると、60年の8.2%から70年の17.1%へ2倍に増えている。これは、60年安保全学連と70年全共闘との違いとして捉えていいだろう。前者がエリート（知識人予備軍）であるが、後者は中間管理職予備軍である。

・最新統計：2019年の大学進学率は58.1%で、高専と専門学校を含めると、82.8%に上る。他の先進国の進学率は、韓国が95.86%、米国が88.3%、香港80.98%、ドイツ70.34%、フランス67.62%、イタリア64.29%、英国61.38%、中国53.76%、となっている。

※進学率は四年制大学と短大

▷産業部門別就労人口比率 (%)

年	総数(万人)	第一次	第二次	第三次
1920	2726	53.8	20.5	23.7
1930	2962	49.7	20.3	29.8
1940	3248	44.3	26.0	29.0
1950	3603	48.5	21.8	29.6
1960	4404	32.7	29.1	38.2
1970	5259	19.3	34.0	46.6
1980	5581	10.9	33.6	55.4
1985	5836	9.3	33.1	57.3
1990	6168	7.1	33.3	59.0
1995	6414	6.0	31.6	61.8
2000	6298	5.0	29.5	64.3
2005	6151	5.1	25.9	67.3

2010	6298	3.6	24.9	71.1
2015	6401	3.6	24.1	72.3
2019	6724	3.3	23.3	73.4

・大衆消費社会が誕生したのが 70 年代の半ばであると予想できる。第三次産業が 50%を超えたことでそれがわかる。また、第二次産業が 70 年代ピークをつけて

て下り坂に差し掛かることとなる。

- ・この大衆消費社会化という現象を巡っては、かの有名な 80 年代の吉本・埴谷論争（コム・デ・ギャルソン論争）で、吉本が論拠の一つに挙げたことがある。

（2）70 年代の過渡性——ポストモダンへの入り口

▷ポストモダンへの序曲

- ・70 年、よど号ハイジャック事件、大阪万博、三島由紀夫事件で始まる。
- ・70 年代は経済史的には転換期であったことは自明であるが、文化史的にはこの時期をもって区分されることが多い。見田宗介は 75 年までを「夢の時代」と位置付け、宮台真司は 70 年までを「未来の時代」と命名し、東浩紀はこの 70 年をもって日本のポストモダンの開始年としている。
- ・では、新左翼にとって 70 年代はどんな時代だったのか？これは明らかだろう。連合赤軍のあさま山荘事件とその後の同志粛清、党派闘争の極北たる内ゲバ、そして東アジア反日武装戦線の三菱重工爆破事件ではないだろうか。多くのブント活動家は「革命戦争」を目指していたはずである。
- ・しかし、多くの学生は政治の季節を卒業し、市民社会へ吸収されていった。

《長い反抗的な髪を切り、ジーンズを脱いでリクルートスーツを着る様は「もう若くないさ…」とフォークソングの歌詞にも唄われた。しかし、それは若者に特有な通過儀礼のように見なされていた。「麻疹が癒えて大人になる」ように、若者たちは社会参加していくのだと捉えられ、事実、そう思ってネクタイを締めた同世代人も多かったことだろう。

が、この時代に若者がかかった麻疹は、それ以前のものとはウィルス株が違ったものだった。だから、彼らに続いて麻疹にかかるはずのより若い世代は、その流行にとらわれなかった。「政治の季節」は、これ以降はもう巡っては来なかったのだ。》（安彦良和『革命とサブカル』 p.7）

【1】大塚英志『「彼女たち」の連合赤軍—サブカルチャーと戦後民主主義』1996 年

▷粛清の基準は何だったか？

- ・大塚は連赤粛清の根源を消費文化（あるいは当時の活動家的にはブルジョア文化）にあるとみる。

《大槻はパンタロンの一件、そして男にとって彼女が常に『かわいい女』であること、そして『少女趣味』であることを『総括』されるままに自己批判し死んでいく。しかし彼女は**連合赤軍の男た**

ちが望むような女になろうと必死だったのであり、その意味で彼女は最後まで男たちにとって「かわいい女」だったのである。》(p.21)

- ・女性活動家への査問の中に「口紅」とか「パンタロン」とかいった商品が出てくる。この時、連合赤軍はブルジョア文化に対峙する方法論を持っていなかったということが大塚は言いたいのだ。

《連合赤軍事件で殺された女性たちに共通なのは 80 年代消費社会へと通底していくサブカルチャー的感性である。したがって十二人が殺された山岳ベースで対立していたのは二種類の革命路線ではなく、意味を失う運命にあった男たちの「新左翼」のことだと、時代の変容に忠実に反応しつつあった女たちの消費社会的なことばであり、少なくとも四人の女性の「総括」はそのような「闘争」の結果生じたものだったのではないか。》同 p.27

- ・化粧や服装などを巡って、自己批判させられるのは今から見れば滑稽であるように見えるが、当時はそのようなブルジョア文化に対して対峙する必要性をどの活動家も持っていたことは確かだ。しかし、女性活動家にとって口紅とかイヤリングとかはブルジョア文化に屈服した証なのか。
- ・このようなブルジョア文化に対する対峙の仕方を巡っては、のちの 80 年代に吉本／埴谷の有名なコムデギャルソン論争がある。吉本がブランド商品を評価し、埴谷が東南アジア諸国の低賃金労働による収奪商品として糾弾した。論争自体は決着をみてはいないが、現在の視点で見れば、吉本の豊かになった大衆に対する肯定的評価には二面的な視点が必要であるだろう。一つには大量生産による消費社会の登場に対して清貧の思想を対峙するだけでは意味がないということ。しかし二つにはその大量生産による商品に社会が埋もれていることによって起こる人々の感性の変性に無自覚でいてはならないということである。¹
- ・埴谷の場合は、古典的マルクス主義の「絶対的貧困化論」が根強く影響していたのではないかと思われるし、新植民地主義的な収奪による先進国労働者の富裕化に対する対峙の仕方を明らかにすることはできていなかった。この論争は現在も古びてはいない課題であり、フェアトレード運動や SDGs 等の地球環境問題としても取り上げられている。ただ、吉本がファッションを民衆のささやかな抵抗だと言ったのは、戦前のモンペと千人針の世界からの発想ではないかと思わざるをえない。→ブルジョア文化への夷狄観。対外文化への免疫反応。

▷サブカルチャー的感性とは何か？

- ・大塚は「サブカルチャー的感性」を肯定的に捉え、それに対峙する理念を連合赤軍が作りえなかったと分析している。

《その（消費社会の）欲望を超克する思想を連合赤軍の人々は紡ぎ出すことのできないまま自壊していった》 p.31

¹ この論争については、これまでも各所で論じられてきている。井上雅人『コムデギャルソン論争とアンアン革命』参照。

(https://www.kyoto-seika.ac.jp/researchlab/wp/wp-content/uploads/kiyo/pdf-data/no43/no_inoue_masahito.pdf)

- ・60年代の高度経済成長によって3C（カラーテレビ・クーラー・自動車）が憧れの生活商品として大衆の欲望を掻き立て、それが僅かな期間に実現していくという、この時代の急速な変化に確かに左派は追いついていなかったのは事実である。
- ・60年代から70年代にかけての変転を証言する例として氷川の手紙を紹介する。彼は60年代のお菓子が10円台のものだったのが、70年代になって千円台のものが売れるようになったことを例に挙げている。（仮面ライダーの変身ベルト）／74年マジンガーZ→超合金

《70年前半に、高額商品が成立するようになった。総じて国民が豊かになり、学生運動も終わったからだと思います。余裕が出てきて、アメリカのファーストフードも入ってきて、中流的に生活が底上げされた感じがします。自分の家庭の記憶でも、60年代は物凄く貧乏だった気がするんだけど、70年代になると、そうでもない。》（安彦良和『革命とサブカル』341：氷川竜介の証言）

- ・だから、大塚の結論はこうなる。

《だが結局のところ全共闘の時代の〈左翼思想〉そのものが最終的にサブカルチャーの中に崩れ落ちていく性質のものであった。全共闘運動からの転向者たちによって80年代のサブカルチャーが担われていったのは歴史的な事実としてある。》31

- ・「欲望を超越する思想」などと挑発的な言葉が並んでいるが、果たしてそんな思想があるのだろうか？かつての修道院のような清貧の思想か鴨長明の方丈記ぐらいしか思い浮かばないのではないだろうか。この辺りの大塚のものの言い方が日本のポストモダン派の左派に共通するニヒルな視線が存在する。

▷「かわいい」文化とは？

《女性メンバーが多く、その意味では「男性原理による女性の抑圧」という因襲を相応に克服した革命左派に対し、これに合流した森恒夫率いる赤軍派は、こういった「フェミニズム体験」を経っていない点が致命的だった。》66

- ・ブントがフェミニズムに鈍感だったと言うよりそれは当時の新左翼党派全体に共通する傾向だった。70年代以降、何度か党派内部の女性問題が話題となったことがそれを示している。また、中核派は7/7華青闘の告発に対して血債の思想を対峙したが、ブントはこれに対しても反応が鈍かったのではないか。
- ・大塚が言うところの女性たちの「かわいい」文化は70年代から台頭してきたのだが、これを女性たちの自立に向けた一つの動きだったと見ている。71年に萩尾望都の『11月のギムナジウム』が発表されている。竹宮恵子とともに「24年組」と呼ばれた女性漫画家たちがそれまでの少女漫画にはない内面描写や同性愛を登場させるなど革新的な変化をもたらした。
- ★大塚の「連合赤軍」に対する視線、あるいは新左翼一般に対する視線は大衆消費社会の文化に対する反応の鈍さをアイロニカルに表現していると見て取れる。彼は自称「オタク」であり、出版業界を渡り歩くという特異な経歴の持ち主であるので、生粋のポストモダン派とは言えないが、見るべき所が多い作者だと言える。

▷70年代：脱政治の時代

- ・1970年代とは、ファーストフード文化（マクドナルド）が始まり、渋谷パルコができ、ディスコがブームとなり、アニメ「宇宙戦艦ヤマト」が上映された時代である。消費者運動（排ガス規制と反公害運動）とインベーダーゲームが共存した時代としての過渡期であった。政治的な方向性を失った若者がアニメやゲームに走った。75年にコミックマーケットが始まったのは、以後の時代を予感させる。

▷見田宗介『70年代における青年像の変貌』

- ・NHKが5年おきに実施している「日本人の意識」調査の1973年版と1978年版とを比べて当時の三無主義の若者の意識を抽出。

《日本に生まれてよかったという感情をますます増大し、日本は一流国だという意識をも強めながら、同時に自分自身が日本のために役立ちたいという感情は弱まりつつある。また、具体的な政治行動の有効性については、シニカルになりながら、同時に自分たちの意見や希望が、幾らかは政治に反映しているという一般的な信頼感は増大しつつある。》 p.241

- ・シニシズムが発生しているという指摘。戦後民主主義に対する全共闘の批判を踏襲しつつ、国家に対する信頼感が増大するという矛盾に見える態度。民主制と国家体制との結びつきを切り離して捉える批判精神なき感性の増大。

《総合してみると、20代前半男子、そしておそらくは青年層一般で増大しつつある「神」への信仰は、伝統的な神道の「神」ではなく、キリスト教的な「神」でもなく、ある種の現代的なかたちの「神」ではないかと思われる。》 227

《この新しい「宗教」意識は、…価値意識（生活目標）との相関が一般に高い。内容的には、〈愛〉価値志向の女子が中心的な担い手である…「身近な人たちと、和やかな毎日を送る」という生活願望は、…典型的な依存性のタイプである。》 229

- ・ここで見田が指摘している「現代的なかたちの神」と言うのが、「愛」だというのはどうやら後にニューファミリーと呼ばれる戦後生まれの若者たちが家庭を持ち始めた時に生まれた意識。マイホーム志向とも呼ばれた。
- ・「依存性」という指摘。後に宮台が「システムに依存するクソな大衆」と指摘した現象の始まり。仲間同士の横の連帯感が薄れていく。

（3）80年代：資本主義的発展の成熟

▷Japan as no.1

- ・この時代が、ポストモダンの発祥の起源である。「ニューアカ」と呼ばれた論者が登場し、東急セゾン文化に代表されるような大衆消費社会が本格的に拡大してきた。「新人類」、「オタク」などと呼ばれる若者が好悪ないまぜに世情を騒がせ、おニャン子クラブ、ロリコンがブーム

となり、ゲーム機が登場して、「スーパーマリオ」や「ファイナルファンタジー」が飛ぶように売れた、そんな時代である。

- ・左派的言説の世界は 79 年のソ連アフガン侵攻と中越戦争によって、第三世界論はほとんどその有効期限が切れてしまった。そして、先に引用した大塚の言によれば、68 年革命の申し子たちが一斉に文化運動の表舞台に登場した。その最も先端的で大衆的であったのは東急セゾングループだろう（もっとも堤は 60 年安保世代だが）。文化を全面に出した消費文化を提示し、キャッチコピーで庶民の消費マインドを誘導した。糸井重里の「おいしい生活」「ほしいものが、ほしいわ」といったスローガンは、当時の大衆を熱狂させたと言える。大衆消費時代は大量生産様式が多品種少量生産へと移行していった時代でもある。

セゾン文化の創始者、堤清二はのちにこう語っている。

《良品計画は、間違いなく私が独走して作りました。それは、エルメス、サンローラン、アルマーニというのを見ながら、やはり疑問を感じたのです。イッセイというロゴを入れると、三割高く売れる。クリスチャン・ディオールが衣料品から化粧品までつくる。これはおかしい、催眠術みたいなものだ、との意識です。じゃあ、私が何かやらなければいけない。》

(<http://www.seijo.ac.jp/educa>) ※「無印良品」はこの企業の提供。

- ・この「催眠術みたいなもの」こそ、ポストモダン派が称揚する「差異」。堤はそんな時代の流れに押し流されながらも疑問には感じていたようである。建築デザイン界でのポストモダン派はコテコテの装飾が主流だったことから、このようなシンプルな装飾を抜いたモダンな商品もまたこの時代の差異の一つとして数え上げられる。要は、隣の人と違うものが欲しいという「個性」への渴望である。
- ・この時代の分析として、次に宮台真司を取り上げる。

【2】宮台真司／石原英樹／大塚明子『増補サブカルチャー神話解体』93/07 年

▷社会システム理論

- ・宮台は正統派の社会学者である。その意味ではポストモダン派ではないが、彼はこの時代のサブカルチャーに対して異様な関心を持って論じている。自称「新人類」。

《…下部構造による規定とか文化的覇権が体制を変えるとといった言説（コミュニケーション！）自体が分析対象になること、ならびに個々のコミュニケーションが社会システムおよび人格システムの恒常性維持という観点から分析されること。》 p.13

《社会システム理論の立場とは、従来の上部構造・下部構造という二元論を否定し、コミュニケーション一元論、すなわちコミュニケーションの接続から成り立つシステムのダイナミズムを記述するものだ。》（『オタク的想像力のリミット』2014 年 p.33）

- ・まず彼のシステム論はこのようなコミュニケーション一元論である。この理論はハーバーマスとかルーマンとかドイツ系の社会学に見られる傾向のようだが、私はこれらには疎いので

深入りはしない。むしろここで注目してほしいのは、古典的マルクス主義を批判しているところである。彼は自ら影響を受けた人物に小室直樹と廣松渉を挙げているので、おそらく彼の物象化論を引き継いでいるのかもしれない。しかしそうだとすれば、上部下部構造論の基礎にある唯物論的な枠組みがコミュニケーションに解消されてしまうのは不思議だ。

- ・このコミュニケーション理論は、20世紀初頭のウィットゲンシュタインなどのゲーム理論に起源を持っているので、リオタールのポストモダン理論に共通項があるとみえる。宮台理論はだから、ポストモダンとマルクス主義あるいはマックスウェーバーとのハイブリットではないか。

《従来の社会思想や社会理論・社会学理論の多くは、(理想的な)社会が成り立っているとすれば、それは人々が何か一価値や規範一を共有しているからだと考えます。その典型が、何らかの合意が社会を支えていると考えるプロト近代的な社会契約説です。しかし僕らの考えるシステム理論は全く違う。人々が何かを共有することによって社会が成り立っているのではなく、共有していると「思える」ことによって、さらに言えばそのように「思える」条件が存在することによって、社会が成り立っている。》

- ・社会契約論はポストモダン派にとっては近代を代表する理論として「大きな物語」の中に位置づけられている。笠井潔は「大きな物語」を「社会契約論」と「自由放任主義」を挙げているが(『思想地図 vol.2』)、その意味で宮台もポストモダン派に親近感を覚えるのであろう。
- ・ただし、「思える」ことと「思える条件」とはあきらかに違う。あくまで物質を否定し、コミュニケーションだけで世界を語るができるというのは、物質もコミュニケーションだと言い切ることで成り立っている。
- ・さらに、本書は実際に若者を対象とした意識調査を元にして80年代のサブカルチャー分析をしているが、その手法は五種類の人格類型を設定して行われている。²分析の詳細はここでの議論の目的と外れるので述べないが、このような人格分類は当時流行の兆しがあったコンピュータRPG³におけるプレイヤー・キャラクターに近い考え方であって、人格概念が崩れていく兆しが予感される。

《新人類とは、商品言語で語り始めた人たち、“記号”的消費を始めた人たち、どんなノリの消費をしているかで人間関係さえ選別し始めた人たちのことです。》同85

- ・消費の嗜好が人間関係を形成するということは、商品によって人格が支配されるという究極の物象化であるが、それが当たり前になってきた社会が生まれつつあったということだ。
- ・この時期、特異なキャラクターが登場する漫画が流行った。『ガキでか』『マカロニほうれん荘』などがその典型。面白ければいいという感性が若者に蔓延。
- ・ただし、それらのキャラクター自体は生産されたものであり、生産者もまた商品の差異化に奔走した時代である。

² ①ミーハー自信家②頭のいいニヒリスト③バンカラ風さわやか人間④ネクラ的ラガード⑤友人よりかかり人間という五類型である。

³ 元々、70年代初頭にアメリカで考案されたテーブルトーク・ロールプレイングゲームが下地としてあり、それをコンピュータに移植したのが始まりである。

《このような「日常性の中の微細な差異」への注目は、一方で、自分の周囲に「理解できない変な奴」をも含めた多様な「他者の発見」を促した。こうして、世代内に引かれた多様な差異の線分に対する研ぎ澄まされた感受性が養われ、60年代には可能だった「〈若者〉としての〈我々〉」という世代的同一性の意識が、徹底的に掘り崩されることになった。》290

- ・他者との違い（個性）を発見！50-60年代的な「団結頑張ろう！」精神の崩壊！
- ・フォード的大量生産方式による市場の飽和に対して、商品の多様性（個別化・差異化）による競争戦に突入したわけだ。ブランド化とウオークマン的応用機。重厚長大から軽薄短小へ。
- ・そして80年代文化のキーワードは「かわいい」と「終末」である⁴。このことを示す典型的なオタク的アニメが『メガゾーン23』と『うる星やつら』



2 『ビューティフル・ドリーマー』。ここには地球の滅亡、

電腦社会、時間の循環、異星人等々というその後のオタク文化の諸要素が揃っている。

《オタク的コンテンツの消費と生産に最初に携わった〈原新人類=原オタク世代〉が、どんな屈折を抱えていたのかを後続世代は理解すべきです。例えば僕の出発点は、73年まで続いた中学高校紛争の「祭り」と、「祭りの後」の〈こんなはずじゃなかった感〉でした。

全てが終わってしまった〈クソ社会〉での「クソな毎日」をどう生きるのかが至上命令でした。それが〈終わりなき日常を生きる〉という規範命題に繋がります。この規範命題から、〈現実の虚構化（ゲーム化）〉と〈虚構の現実化（異世界化）〉の営みが生まれたのです。》552

- ・宮台はこの80年代文化を消費し生産してきた「新人類」たちの感性に自らを重ねて、「クソ社会」で生き抜くための規範をその後提起し続けます。大塚が言うように確かにこの時代のサブカルチャーに関わった者たちは先行する政治世代のさまざまな遺産を引き継いでいるということは確かだ。

⁴ この時期、陰謀論も登場している。宇野正美『ユダヤが解ると世界が見えてくる』1986年、赤間剛『フリーメーソン世界支配の戦略』1988年

- ・ここでいう「現実の虚構化」とはオタクたちが熱中したアニメやゲームであり、「虚構の現実化」とはあのオウム真理教や自己啓発セミナーに集まった者たちである。リアリズムを保つことが困難な時代であった。

(4) 崩壊と失われた 10 年 (90 年代論)

▷この時代からオタク文化が全面開花することになる。

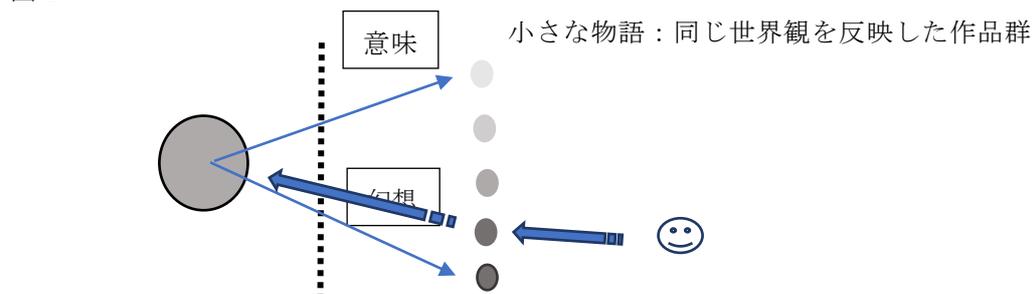
- ・この時代を象徴する二つの事件。オウム真理教のサリン事件とアニメ『エヴァンゲリオン』である。共に 1995 年の出来事。
- ・オタク文化の中で『エヴァ』が特異な位置にあるのは何故か？いわゆる「セカイ系」と呼ばれるアニメが 2000 年代中頃まで続くのだが、その背景は、70 年代後期のインベーダーゲームから始まり、ゼビウスを経て、ファミコン・プレイステーションなどのソフトである RPG ゲームの世界観が反映している。また、映画部門では『スターウォーズ』『ターミネーター』『風の谷のナウシカ』『機動戦士ガンダム』などがその系統となる。
- ・オタク文化で見逃せないのが、ファン層の横のつながりである。コミケがこの時期から大量動員され、フィギュアなどの関連商品が生産され、二次創作が盛んに行われる。この現象は 80 年代のビックリマンカードに由来すると言われている。
- ・これらの異世界ゲームと関連商品を支える「精神」とでもいえるものは、この時期から生まれた歴史修正主義の精神と相似形である。つまり、それまでの歴史記述（とりわけ戦前の）は歴史学者や知識人の専売特許であったものが、誰でも如何様にも解釈できるんだというような素地が生まれつつあった。⁵
- ・この時代のポストモダンの騎手といえば、東浩紀である。

【3】東浩紀『動物化するポストモダン』2001 年

▷彼こそ、ポストモダン派とサブカルとの密接な関係を表象している第一人者。

- ・《オタク系文化の構造にはポストモダンの本質が極めてよく現れている。》14
- ・オタク＝ポストモダンという図式。
- ・大塚の「物語消費論」から始まる。大塚の「物語消費論」を彼なりに図式化。この図式は、ポストモダン派たちの言うところの「大きな物語」の喪失によって生まれた「小さな物語」の消費構造を示している。(図 1)

図 1 :



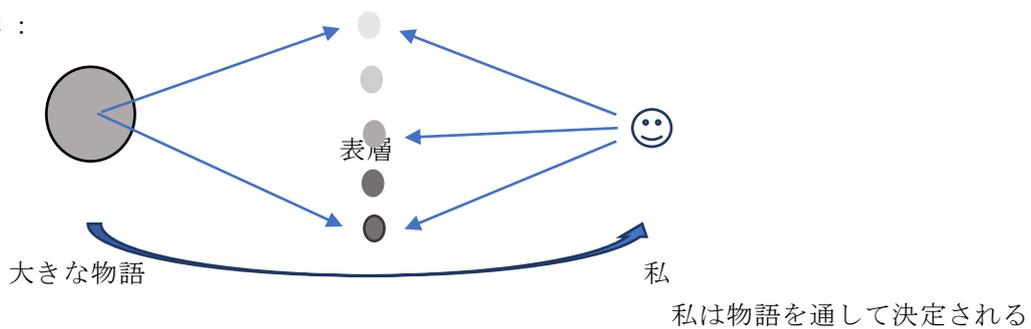
⁵ 太平洋戦争に負けていなければ、という設定のゲームが生まれるのもこの時期である。

消費

大きな物語

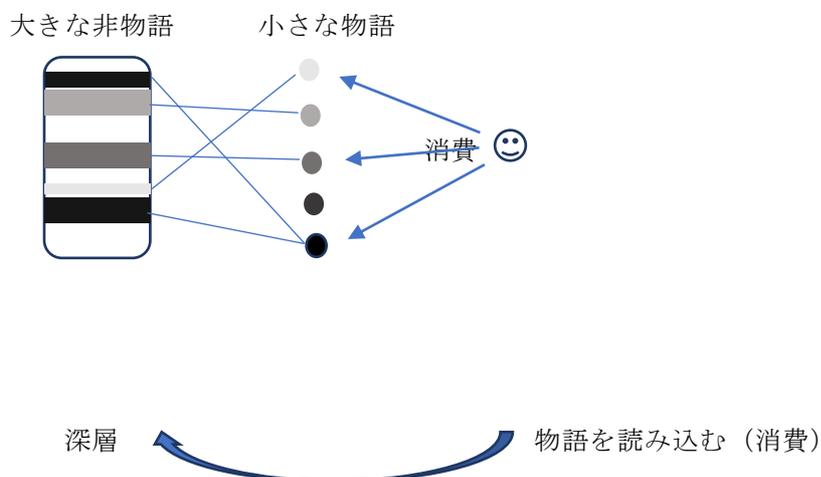
- ・東によれば、これはまだ「大きな物語」が存在していて、幻想ではあれ「見えている」状態。
- ・そして、東の近代の位置付けが、「ツリーモデル」。(図2)

図2 :



- ・「物語消費論」との違いは、「大きな物語」と私（消費者）との間にスクリーンがあるかないかである。ツリーモデルは私の主体的な探求によって「大きな物語」は見えるようになり、それによって決定されている私を変えることができる（変革可能性）。一方、物語消費論は私は直接変革することができず、意味の解釈可能性だけである。
- ・では、「オタク=ポストモダンという図式」とは何だろう？
- ・東のポストモダン図式を「データベース消費」と命名。(図3)
- ・大衆消費社会においてはこの消費という経済的局面を人々の意識形態を大きく規定する。消費が世界を変える。

図3 :



《その虚構の物語は、ときに現実の大きな物語（政治的なイデオロギー）の替わりとして大きな役割を果たしている。その最も華々しい例が、サブカルチャーの想像力で教義を固め、最終的にテロにまで行きついてしまったオウム真理教の存在である。》 p.55

- ・この図式では、深層自体は物語形式を取らない。物語にするには、私（消費者）が表層に反映した虚構から深層を部分的に読み込むしかないということになる。その意味では主体性は復活しているが、どこまでいっても部分的なものしか捉えられない。
- ・だから、個々の主体（消費者）によって様々な虚構の読み込みが生まれ、おそらく差異が生まれるということになる。→データの背後にある下部構造の存在を予感。

《50年代までの世界では近代の文化的論理が有力であり、世界はツリー型で捉えられていた。従ってそこでは必然的に、大きな物語が絶えず生産され、教育され、また欲望されていた。例えばそのひとつの現れが学生の左翼主義への傾斜だった。》 56

- ・80年代はサブカルが「大きな物語」の代替え物であったが、90年代になると、そういうメッセージに反応しなくなり、「キャラ萌え」が始まる。
- ・二次創作的幻影を消費するシステム。

《かつては、共感の力は社会を作る基本的な要素だと考えられていた。近代のツリー型世界では、小さな物語から大きな物語への遡行の回路が保たれていたからである。しかしいまや感情的な心の動きは、むしろ、非社会的に、孤独に、動物的に処理されるものへと大きく変わりつつある。ポストモダンのデータベース型世界では、もはや大きな共感など存在しえないからだ。そして現在のオタク系作品の多くは、明らかに、その動物的処理の道具として消費されている。この限りで、オタク系文化における萌え要素の働きは、じつはプロザックや向精神薬とあまり変わらない。》

139

- ・「動物化」という言葉はコジェーヴのヘーゲル論からの借用。
- ・2010年以降、大塚と東はこれらのポストモダン図式から啓蒙と教養論という近代モデルへ回帰しつつある。

（5）21世紀のナショナリズム（00年代）

▷ネトウヨたちの登場：インターネット社会の開花

- ・「チャチャチャ倶楽部」から「2ちゃんねる」へ。90年代中期からインターネットの大衆化が進展。初期の掲示板には理工系の若手技術者たちが集うサイトであった。

《…当時の若い世代の青臭いまでの正義感と使命感に支えられ、真摯な議論が交わされる場として成り立っていたとみられる。》

《しかしゼロ年代になるとそうした雰囲気に変調が生じ、茶人の平和なコミュニティに徐々に崩壊の兆しが現れてくる。様々な論者の荒らし行為が高じて大規模な「内戦」が突発し、茶人同士が相争うという事態が打ち続くようになる。》(伊藤昌亮『ネット右派の歴史社会学 アンダーグラウンド平成史』p.200)

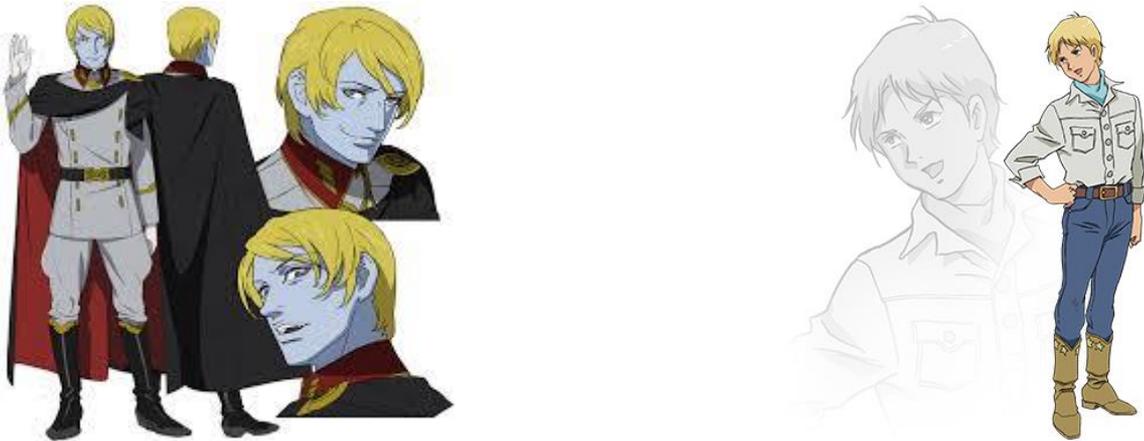
- ・西鉄バスハイジャック事件で、犯人が2ちゃんねるに犯行予告を投稿していたことで一躍有名になる。(ネオ麦茶事件)
- ・右派的言説をネットでバラまき、リベラル派や大手新聞社、マスコミへの憎悪書き込みが蔓延。嫌韓、慰安婦、南京、歴史教科書、東京裁判等々
- ・ネトウヨの分析をする伊藤昌亮はこれらの急速に炎上するサイトの投稿者たちの文化を『機動戦士ガンダム』に求めている。

《その一つは「善悪二元論批判」とでもいうべきものだ。この作品では地球連邦軍がジオン公国と戦うが、しかしその対立の構図は必ずしも明確なものではなく、どこに真の正義があるのかも判然としない。ジオン側も絶対悪として描かれているわけではなく、地球連邦軍も一枚岩ではない。》

161

《戦後民主主義という立場がときに傾きがちな教条的・独善的な態度へのアンチテーゼというスタンスだ。》同

- ・『宇宙戦艦ヤマト』(70年代)と『機動戦士ガンダム』(80年代)との違い。



- ・仇役の描き方の違い。ガミラス星人は明らかにナチスのカリカチュア。一方、ジオン公国のシャア・アズナブルは見た目からも好青年である。
- ・『ヤマト』の原作者、松本零士は戦前生まれ。『ガンダム』のキャラクターデザイナーである安彦良和は全共闘世代である。
- ・00年代からいよいよ「日本の反知性主義」が姿を表してきた。しかし、戦後の自民党を補佐してきた街頭右翼ではなく、90年代に培われた右傾化したネット環境から出てきた独特のスタイルを持った愉快犯的な右翼層が登場。
- ・2006年末結成。在特会(在日特権を許さない市民の会)設立時500名程度。最盛期1万5000名。

《在特会の結成当時の広報責任者は私の取材に対し、「会の母体となったのは『2ちゃんねる』のようなネット上の掲示板で、保守的な意識を持って活動してきた人々だ」と答えている。》 251
《おそらく、従軍慰安婦に関する深い知識もなければ、議論しようという気持ちもない。大事なのは在日の集住地域で大騒ぎするという一点だけだ。》 253

《一部の参加者にとってデモは娯楽、エンターテインメントでもある。在特会メンバーの一人にデモ参加の理由を尋ねると、「楽しいから」という答えが返ってきたことがある。》（安田浩一『「右翼」の戦後史』 p.254

【4】大澤真幸『不可能性の時代』2008年

▷戦後問題から始まる論争

- ・90年代の政治改革期に始まる戦後総括問題を巡って、加藤典洋／高橋哲哉の論争に代表されるような対米従属問題等が安全保障問題／嫌韓・嫌中議論／従軍慰安婦問題等へ派生していく。
- ・これらの論争へ関わる形で登場。とりわけ、サブカチャーへの関心。政治的傾向はポストモダン派と共通性。

《理想の時代の末期に現れたのが、1960年代末の全共闘運動である。全共闘運動は、社会の革命・改革を求める運動であった以上は、理想の時代に属する出来事であったと、とりあえずは言わなくてはならない。だが、この運動がめざしていた理想、指向されていた理想社会とは、どのようなものだったのだろうか？全共闘運動に参加した若者たちがめざした理想は、しかし、具体的・実質的な内容をほとんどもっていなかった。それは、ただ、従来の権威、従来の理想を否定するという以外の内容を持ってはいない。理想の否定だけが理想であるとするならば、この運動は、理想の時代の末期的な症状であると見なさざるをえない。》 p.74

- ・ここでも「全共闘」運動を捉え損ねている。ポストモダン派に共通するのは、時代精神の分析ではなく「若者の理想」などという一般的な視点になってしまう。

▷80年代以降を「虚構の時代」と位置付け

- ・それは理想の否定性の発露だという。弁証法？

《理想の時代から虚構の時代への転換は、理想の時代の徹底化によって、そこに内在していた自己否定性が引き出されることでもたらされたのではないか。このように推論することができる。》

p.80-1

- ・全共闘の批判としては、桂秀実などの方がよっぽど真つ当な指摘をしている。

《全共闘の言う「戦後民主主義批判」がスターリン批判の一ヴァリエーションではなく、戦後民主

主義それ自体が「戦時体制」を意味するものだという認識からの批判だったとすれば、ヴェトナム反戦闘争は単なる傍観者の良心のやましきから発するものではありえない。それは、兵站地域たる福祉主義的国家の「豊かさ」が、それ自体として戦争状態そのものであるという認識からする運動であり、単なる反戦運動というよりは、後述するように「国家に対抗する」戦争という側面を孕まざるをえないものであった。》(『革命的なあまりに革命的な 「1968年の革命」 史論』287)

- ・大澤のこのような緩い政治意識から見ると、80年代の「新人類」も次のように見える。

《彼らが、こうした語で呼ばれたのは、現実の社会生活に深く執着したり、コミットしたりすることなく、それを虚構の物語と同等にしか重視しない、彼らの軽いノリが、より上の世代の者たちの目にはきわめて新奇なものに映じたからである。》 p.68

- ・「虚構の方が現実より重い」という新人類⇨オタクの精神を大澤は「普遍性への欲望」だという。
- ・そして、普遍性を求めながら現実の欺瞞に直面して彼らはアイロニカルになるという。

《このような相対主義的なアイロニズムは、さしあたっては、「第三者の審級」の「徹底した不可視化」を伴っている。第三者の審級とは、規範の妥当性を担保する超越的な他者である。もともと、近代社会は、第三者の審級の抽象化・不可視化を通じて、実現される。》 103

- ・大澤のオタク論は、「カフェイン抜きのコffee」とか「他者性を抜き取った他者」とかいった表現で、現実回避する普遍主義者という捉え方。
- ・そして、この虚構性が1995年に爆発する。

《95年の地下鉄サリン事件は、虚構の時代が終わったこと—あるいは既に終わっていたこと—を知らせる出来事だったのだ。》 156

- ・ここから「不可能性の時代」が始まる。

《われわれの社会は、今、終わりということへの感覚を、鈍化させてきている。…終わりの感覚が終わったときに、何が困るのか？偶有性への想い（他でもよかったのではないか、他でもあり得たのではないか）がいつまでも解消されず、現実を「必然（これしかない）」として引き受けることができなくなるのだ。》 211

- ・ここで再度、オタク文化が登場。00年代の桜坂洋『All You Need Is Kill』舞城王太郎の『九十九十九』
- ・大澤によればこれらは「多文化主義」を象徴しているようだ。そして、それは《グローバル資本主義に極めて適合的な主張》(225)なのだという。

《多文化主義的な社会とは、人々のアイロニカルな没入によって成り立っているのだ。》 233

- ・これでは、現代はポストモダンではなく、近代の延長だということになる。

(6) アベノミクスの時代 (10 年代)

▷東日本大震災と福島原発事故に始まって、コロナパンデミックによって終わる時代

- ・在特会→カウンター行動→14 年桜井辞任→16 年「ヘイトスピーチ解消法」／日本第一党→地元右翼との野合
- ・反原発運動→安保法制改悪→シールズ→立憲民主党
- ・「セカイ系」の終焉→「シンゴジラ」「進撃の巨人」「鬼滅の刃」
- ・新海誠「君の名は」「天気の子」
- ・コミケ 50 万人規模。100 社以上協賛。

《2018 年から 19 年にかけて、日本アニメの世界市場は引き続き拡大基調。11 月 20 日、一般社団法人日本動画協会が 2019 年の日本アニメの世界市場を発表した。

協会の調査によれば、2019 年の日本アニメの国内外のユーザー市場の合計(アニメ産業市場)は 2 兆 5112 億円に達した。前年比で 15.1% 増と高い成長を実現し、8 年連続の過去最高を更新した。

また初めて 2 兆 5000 億円を超えた。10 年前、2009 年の 1 兆 2661 億円に較べておよそ 2 倍にもなる。

また日本動画協会は、国内のアニメ制作会社の売上げを合算したアニメ業界市場の数字も算出している。こちらは 3017 億円で前年比 12.9% の増加、初めて 3000 億円の大台を超えた。こちらも

2009 年の 1468 億円のほぼ倍である。》 (<http://animationbusiness.info/archives/10596>)





・漫画の市場規模は国内で約 5000 億円で、書籍全体の売り上げの三分の一。この規模は世界的に見ても突出しており、アメリカの漫画市場が 250 億円程度なのでその突出ぶりが際立っている

・ゲーム関連産業の規模を見ると、スマホ・家庭用ゲーム機・PC を含めて 1 兆 8000 億円規模である。家電業界規模が 7 兆円程度なので、

このサブカル関連の規模の大まかな合計である 5 兆円弱と比べて遜色ないものとなっている。

【C】オタクは日本の反知性主義の産物か

▷現在の世界的な「反知性主義」は先進国、とりわけキリスト教圏の現象であり、背景に反権威主義がある。

▷日本のサブカルチャーと特異なオタク現象は、「反知性主義」ではない。ここまで論じてきた四人の論者のサブカルチャー分析は総じて 60 年代の政治的季節の反作用であり、商品の過剰な反乱に対して反応した日本的感性特有の現れであったと見るべきだ。オタク的な感性は、日本独自の無構造的な文化受容の感性が関係している可能性が高い。

- ・二次創作は、歌舞伎の技法であった。プラットフォーム型の投稿サイトは明治初期の「文壇」「論壇」と同型であると、大塚の指摘。
- ・反知性主義あるいは虚構的な陰謀論の蔓延を準備する素地を作ったという意味において。

《安倍の「教養」、トランプの「教養」は「共通」でも、日本でもアメリカでも国内で「教養」の「分裂」が起きている。それは左右の対立というより、「教養」（参照系）が違う。一方が「反知性」というわけでなく、「教養」が違うからお互いに「バカ」に見えます。》（大塚英志『日本はバカだから戦争に負けた』195）

【5】ジャン=フランソワ・リオタール『ポストモダンの条件』1979/1986

▷「近代」とは？

《科学はみずからのステータスを正当化する言説を必要とし、その言説は哲学という名で呼ばれてきた。このメタ言説がはっきりとした仕方でなんらかの大きな物語---〈精神〉の弁証法、意味の解釈学、理性的人間あるいは労働者としての主体の解放、富の発展---に依拠しているとすれば、自らの正当化のためにそうした物語に準拠する科学を、われわれは〈モダン〉と呼ぶことにする。》

8

- ・リオタールにとっては、近代は科学とそれを支える哲学に起因している。つまり、東的図式でいう「深層」を捉える武器として。
- ・この科学が伝えるものが「大きな物語」ということ。そしてそこに「理性」「真理」と「啓蒙」が生まれる。

▷「ポストモダン」とは何か？

《…〈ポスト・モダン〉とは、まずなによりも、こうしたメタ物語に対する不信感だと言えるだろう。》⁹

- ・このメタ物語は、プラトンの洞窟のアレゴリーに喩えられる。

《科学的知は、もうひとつの知、つまり科学的知にとって非知にほかならない物語的知に依拠しない限りは、みずからが真なる知であることを知ることも知らせることもできない。物語を欠けば、科学的知はみずからを前提としなければならなくなり、それは、それが非難するもの、つまり論点先取りの虚偽、偏見の中に陥ることになってしまう。》⁷⁷

- ・科学は無前提であるという前提。
- ・しかし、前提があることが明らかになった。それが言語ゲーム（規則）。

《規則はそれ自体すでに科学的である討議の只中においてしか決定され得ないし、それがよい規則であるかどうかということは、専門家のコンセンサスを得られるかどうかにかかっており、それ以外の証拠はないということである。》⁷⁸

- ・だから、このポストモダンは「ニヒリズム」であり、「脱正当化」であるという。

《この〈脱正当化〉は、それをもう少し先にまで推し進め、その射程をもう少し広げるならば---そして、それこそウィットゲンシュタインが彼なりの仕方で行ったことであり、またマルチン・ブーバーやエマニュエル・レヴィナスといった思想家たちが彼らなりの仕方で行っていることなのだが---、ポスト・モダンの思考の重要な流れに道を開くことになる。科学は科学固有のゲームを行うのであって、他の言語ゲームを正当化することはできないということだ。》¹⁰³

- ・ゲーデルの不完全性定理やマンデルブローのフラクタル理論の紹介。
- ・ゲームの法則に従いながら、「小さな物語」が併存する世界。パラロジ。

《もはや大きな物語へ訴えかけることは排除される。すなわち、ポスト・モダン時代に科学的言説の価値づけとして、〈精神〉の弁証法にも人間の解放にすらも、依拠することはできないだろう。だが、…〈小さな物語〉は、すぐれて想像的発展、しかもとりわけ科学における想像的発展がとる形態であり続けている。》¹⁴⁹

- ・リオタールの理論には、ポストモダンによって生起する現象、すなわち相対主義と陰謀論という副作用に対して何の有効性も持ち得ない。

▷日本の「反知性主義」とは？

- ・適菜収が指摘した B 層をターゲットにした小泉政権の選挙戦略⁶。これを可能にした「電通」的知性。→安倍／菅政権下での電通等のメディア戦略を担う思想。

⁶ 適菜収『日本をダメにした B 層の研究』2012 年講談社

- ・三浦展が名付けた「郊外下流クラス」⁷という村人たち。
 - ・2018年に青年会議所が流布させた「宇予くん」というキャラクター。
 - ・「知性を欠いた人たち」を標的にした政権維持戦略を担う「知性ある人々」の感性。
- ★無党派層の戦後の推移：三春の著書から
- ・60年代=20%台
 - ・70-80年代=30%台：上乘せされた10%は大衆消費社会下における政治的アパシー層
 - ・90年代前半以降=60%台：保守層の分裂と冷戦体制の崩壊。
 - ・民主党政権を成立させた第45回衆議院選挙が唯一、無党派層が減少。
 - ・世界的傾向：欧州各国も投票率の低下が進む。フランス/スイス=60%以下。ドイツ/イギリス/北欧諸国=70%前後。

参照作品

- 伊藤昌亮『ネット右派の歴史社会学 アンダーグラウンド平成史』2019年 青弓社
 宮台真司/石原英樹/大塚明子『増補サブカルチャー神話解体』2007年 ちくま文庫
 宮台真司監修『オタク的想像力のリミット』2014年 筑摩書房
 宮沢章夫『ノイズ文化論講義』2007年 白夜書房
 見田宗介『20世紀末の思想地図』論壇時評1985/86 著作集V 岩波書店
 見田宗介『現代社会の理論 情報化・消費化社会の現在と未来』1996年 岩波新書
 大澤真幸『戦後の思想空間』1998年 ちくま新書
 大澤真幸『不可能性の時代』2008年 岩波新書
 東浩紀『ゲーム的リアリズムの誕生』2007年 講談社現代新書
 東浩紀『動物化するポストモダン-オタクから見た日本社会』2001年 講談社現代新書
 東浩紀『ゲンロン戦記』2020年 中公新書ラクレ
 北田暁大『社会の批評』2010年思想地図 vol.5 NHK 出版
 結秀実『革命的なあまりに革命的な 「1968年の革命」史論』2018年 増補 ちくま学芸文庫
 結秀実『1968年』2006年 ちくま新書
 高田明典『現代思想のコミュニケーション的転回』2011年 筑摩選書
 大塚英志『「彼女たち」の連合赤軍-サブカルチャーと戦後民主主義』1996年 角川文庫
 大塚英志『「おたく」の精神史 1980年代論』2004年 講談社現代新書
 大塚英志『日本がバカだから戦争に負けた』2017年 星海社新書
 斉藤環『戦闘美少女の精神分析』2006年 ちくま文庫
 リチャード・ホーフスタッター『アメリカの反知性主義』2003年 みすず書房
 森本あんり『反知性主義 アメリカが生んだ「熱病」の正体』2015年 新潮選書
 内田樹編『日本の反知性主義』2015年 晶文社
 ジャン=フランソワ・リオタール『ポストモダンの条件』1986年 水声社
 三春充希『武器としての世論調査』2019年 ちくま新書
 安田浩一『「右翼」の戦後史』2018年 講談社現代新書

⁷ 三浦展『下流社会 新たな階層集団の出現』2005年光文社新書

日本の戦後文化史

	国内政治	国内経済	文化	サブカルチャー	ゲーム/アニメ	左派	右派	世界		
1945	ポツダム宣言受諾					連合国＝解放軍規定			1945	
1946	日本国憲法制定/極東軍事裁判	財閥解体/農地改革		風刺漫画雑誌発刊多数		民族民主革命論	神社本庁設立		1946	
1947	2.1ゼネスト			「漫画少年」創刊/サザエさん		戦争責任論		トルーマンドクトリン	1947	
1948								マッカーシー旋風	1948	
1949			青い山脈					中華人民共和国成立/ソ連核実験	1949	
1950	レッドパージ		聴けわだつみの声	ジャングル大帝		共産党分裂/非合法活動		朝鮮戦争	1950	
1951	日米安保条約調印		映画「羅生門」			社会主義協会	祖国防衛懇談会/大日本愛国党		1951	
1952				鉄腕アトム					1952	
1953		地上波テレビ放送開始		リボンの騎士				スターリン死去	1953	
1954				「原爆80号」(はりま昭吾)				ジュネーヴ協定	1954	
1955	55年体制/自由民主党結成、社会党左右合同	平均世帯人数4.9人	石原『太陽の季節』			六全協/平和革命論	防共挺身隊/自由民主党同志会	バンドン会議	1955	
1956	日ソ国交回復		吉本/武井『文学者の戦争責任』			トロツキー/グラムシ再評価		ハンガリー事件/スターリン批判	1956	
1957			チャタレイ裁判			革共同結成(反日共)			1957	
1958				鉄人28号/月光仮面		共産同結成/世界革命論	新日本協議会結成		1958	
1959			吉本『芸術的抵抗と挫折』/大江『われらの時代』	少年ジェット/忍者武芸帳			全日本愛国者団体会議結成	ソ連平和共存路線/キューバ革命	1959	
我々の時代										
1960	安保闘争/社会党浅沼暗殺事件	カラーテレビ/インスタントコーヒー		快傑ハリマオ		全学連	橋川文三/松葉会、毎日新聞社襲撃/日本学生会議		1960	世帯人数4.53人
1961		岩戸景気	「上を向いて歩こう」/百科事典ブーム	白土三平「サスケ」/伊賀影丸	映画「モスラ」	左派文化人除名多数	楠皇道隊結成(任侠系右翼)/三無事件	ケネディ政権/非同盟会議	1961	
1962					漫画「おそ松くん」		私立皇学館大学設立	キューバ危機	1962	
1963		名神高速一部開通	『愛と死を見つめて』	状況劇場	アニメ「鉄腕アトム」		関東会結成(児玉誉士夫)		1963	
1964	佐藤内閣/東京オリンピック/海外旅行自由化	新幹線開通	TV「ひっこりひょうたん島」/柴田翔「されど我が日々」	「カムイ伝」/サイボーグ007/里中満智子「びあの肖像」					1964	
1965	日韓条約	いざなぎ景気/世帯人数4.01人	エレキギターブーム	墓場の鬼太郎/巨人の星		ベ平連結成/構造改革路線		ベトナム戦争泥沼化	1965	
1966	建国記念の日制定	カセットテレコ	3C時代	谷川/吉本/植谷『民主主義の神話』/魔法使いサリー	TV「ウルトラマン」	三里塚闘争	日本学生同盟/生長の家学生会全国総連合	文化大革命	1966	ラルフ・ネーダー
1967	10.8羽田ゲバ棒デモ		グループサウンド『万延元年のフットボール』	フーテン族/天井棧敷/火の鳥/「ねじ式」/天才バカボン	漫画「明日のジョー」	ポツダム自治会批判			1967	
1968	新宿動乱	GDP世界第2位	ゴーゴークラブ/吉本隆明「共同幻想論」	アタックNo1/明日のジョー/ヒッピー/マリファナ		全共闘/共同幻想論		ブラハの春/バリ5月革命	1968	
1969	東大闘争/水俣裁判始まる		マンガ「ドラえもん」連載	天井棧敷/赤瀬川原平/八時だよ全員集合/ウッドストック	TV「ひみつのアッコちゃん」	赤軍=三ブロック階級闘争論	日本青年社/全国学生自治体連絡協議会		1969	
1970	大阪万博/よど号ハイジャック事件/三島由紀夫事件/7.7華闘告発		「8時だよ!全員集合」/石牟礼道子「苦海浄土」/女性雑誌「アンアン」	ジョージ秋山「アシュラ」/山上たつひこ「ひかる風」		市民社会論/革新自治体論	日本青年協議会	マスキー法	1970	
1971		マクドナルド一号店	カップヌードル/永山則夫「無知の涙」	萩尾望都「11月のギムナジウム」		市民運動の時代/ウーマンリブ	反核防統一戦線	ニクソンショック	1971	世帯人数3.48人
1972	あさま山荘事件/日中国交回復/沖縄返還	シヨック経済	日本列島改造論	池田理代子「ベルサイユのばら」			一水会		1972	
1973	狭山闘争		オイルショック	渋谷パルコ/「現代思想」創刊	ノストラダムスの大予言/大島弓子「ミモザ館でつかまえて」			オイルショック/ベトナム戦争終結	1973	
1974		コンビニ一号店		オカルト漫画	アニメ「宇宙戦艦ヤマト」/アルプスの少女ハイジ		日本を守る会		1974	
1975			ディスコブーム	コミックマーケット開催				サイゴン陥落	1975	
1976	ロッキード事件		ビデオデッキ発売	およげたいやきくん/雑誌「Popeye」	竹宮恵子「風と木の詩」	キャンディ・キャンディ		毛沢東死去	1976	ボードリアル『象徴交換と死』
1977				ピンクレディー/映画「スターウォーズ」	鴨川つばめ「マカロニほうれん荘」				1977	
1978				高橋留美子「うる星やつら」/パタリロ	インベーダーゲーム		元号法制化実現国民会議(石田和外)		1978	

番外

世帯人数4.53人

ラルフ・ネーダー

世帯人数3.48人

ボードリアル『象徴交換と死』

		ニューファミリーの時代								
1979	元号法制化	第二次オイルショック	村上春樹「風の歌を聴け」／映画「エイリアン」	新人類／キン肉マン	アニメ「機動戦士ガンダム」	第三世界論の終焉			スリーマイル島事故／中越戦争／ソ連アフガン侵攻	1979
1980			校内暴力	ロリコンブーム／鳥山明「Dr. スランプ」						1980
1981			オレたちひょうきん族				日本を守る国民会議	レーガン政権		1981
1982	中曽根政権		ニューアカ／「笑っていいとも！」	『羊をめぐる冒険』／「漫画ブリッコ」	アニメ「うる星やつら」	反核声明／反核運動				1982
1983		東京ディズニーランド	ポストモダン	オタク／ゼビウス	ファミコン					1983
1984	臨教審		東急セゾン文化	マハラジャ／大友克洋「AKIRA」	北斗の拳／ドラゴンボール					1984
1985	男女雇用均等法	労働者派遣法	おニャン子クラブ／吉本・植谷論争	たがみよしひさ「軽井沢シンドROOM」／土郎正宗「アップルシード」	UF0キャッチャー／スーパーマリオ／風の谷のナウシカ／メガゾーン23		ユダヤ陰謀論／フリーメイソン	ブラザ合意／ゴルパチョフ書記長		1985
1986		ワープロ			ドラゴンクエスト			チェルノブイリ事故		1986
1987	国鉄民営化		フリーター	映画「ゆきゆきて、神軍」／ジョジョの奇妙な冒険	ファイナルファンタジー／天空の城ラピュタ／イース		朝日新聞阪神支局襲撃事件	ブラックマンデー		1987
1988	リクルート事件／		多重人格ブーム	宮崎勉事件／ロードス島戦記	メガドライブ／テトリス			韓国民主化		1988
1989	連合結成／昭和天皇死去	消費税導入		土郎「攻殻機動隊」	ゲームボーイ／コミケ10万人突破			天安門事件／ベルリンの壁崩壊		1989
1990		バブル崩壊	自己啓発セミナー／カラオケBOX	新宗教ブーム／ハルマゲドン（オウム）			長崎市長襲撃事件	ソ連崩壊／ドイツ統一		1990
		冷戦体制解体→自由主義の時代								
1991			「ジュリアナ東京」		ストリートファイターII	慰安婦問題	新保守系雑誌創刊	湾岸戦争／ソ連崩壊		1991
1992	PKO法		南中ソーラン		セーラーMoon			地球サミット（気候変動枠組み条約）		1992
1993	細川内閣／河野談話	ウィンドウズ3.1	援助交際				福田和也	クリントン政権		1993
1994	村山内閣	インターネット開幕			プレイステーション／ときめきメモリアル		歴史教科書問題			1994
1995	村山談話／阪神大震災／サリン事件／女性のためのアジア平和国民基金	経団連「新時代の日本的経営」	WINDOWS95／インターネット時代開幕	小林ゴーマニズム宣言	ブリクラ／攻殻機動隊GHOST IN THE SELL	ボランティア活発				1995
		オタクのナショナリズム化＝総オタク化								
1996		住専国会／公的資金投入	不登校顕在化	「エヴァンゲリオン」	ポケットモンスター					1996
1997	チェンマイイニシヤティブ	消費税5%／証券・銀行倒産続出		酒鬼薔薇事件／ちゃちゃちゃ倶楽部	ワンピース／もののけ姫		日本会議	アジア通貨危機		1997
1998	NPO法		ガンダロファッション		グーグル始動					1998
1999	国旗国歌法／男女共同参画社会基本法	派遣法拡大		2チャンネル開設						1999
2000	小泉政権／男女共同参画社会基本法			映画「バトルロワイアル」		女性国際戦犯法廷		ITバブル崩壊		2000
		格差社会化								
2001				「データベース消費」／ネット問題	千と千尋の神隠し			ブッシュ政権／9.11事件／ネオコン		2001
2002							ジェンダーバッシング			2002
2003		派遣、製造業へ拡大	六本木ヒルズ開業	メイド喫茶／ライトノベル	アニメ「鋼の錬金術師」	クリスマス粉砕集会／イラク反戦運動		イラク戦争		2003
2004	サウンドデモ／自衛隊イラク派遣	ライブドア事件		ネット右翼話題	デスノート／Fate					2004
2005		クレーム／モンスターP『下流社会』『ALWAYS三丁目の夕日』		YouTube開設／嫌韓本ベストセラー／AKB48	電車男	「素人の乱」開店				2005
2006	教育基本法改正／第一次安倍政権			ニコニコ動画開設	涼宮ハルヒの憂鬱		「噂の真相」編集部襲撃	北京オリンピック		2006
2007			文化庁メディア芸術祭10周年企画展	iPhon発売	初音ミク					2007
2008	麻生政権	リーマンショック	田母神事件／年越し派遣村	アキハバラ無差別殺傷事件				リーマンショック		2008
2009	民主党政権							オバマ政権		2009
2010	尖閣漁船衝突事件	クールジャパン						アラブの春		2010
2011	東日本大震災／福島原発事故				魔法少女まどか☆マギカ	反原発集会（1.5万人）		シリア内戦／オキュパイ運動		2011
2012	第二次安倍政権	CJ担当大臣制			PSYCHO-PASS	カウンター行動				2012

リオータル『ポストモダンの条件』

2013		日銀量的緩和	「アナと雪の女王」/「半沢直樹」ブーム		「進撃の巨人」			スノーデン事件	2013
2014		消費税8%			艦隊これくしょん			急進左派運動（ボデモス/シリザ/サンダース）	2014
2015	安保法制改正/慰安婦問題日韓合意			渋谷ハロウィン騒動		シールズ登場/反安保法制運動			2015
2016		日銀マイナス金利/世帯人数2.47人		相模原事件/鬼滅の刃	ポケモンGO/君の名は/シン・ゴジラ			英国、EU離脱	2016
2017			#MeToo運動	座間殺害事件				トランプ政権	2017
2018					ヴァイオレット・エヴァーガーデン			米朝会談	2018
2019		消費税10%		川崎市通り魔事件/京アニ事件	天気の子	れいわ新鮮組/反緊縮社会運動		気候変動問題（グレタ）	2019
2020	コロナ騒動/菅政権	緊急事態宣言			映画「鬼滅の刃」/「エヴァ」最終			コロナパンデミック	2020
2021								米バイデン政権	2021

隠されたMMT期

2.39人